

令和2年度 ふるさと教育推進事業

浜田教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立三隅小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	三隅の宝 西条柿のひみつ	ふるさとへの愛着と誇りをもつ

① 取組の概要

- 6月：「歴史」「育て方」「作っている人」の3つのチームに分かれて調べ学習スタート
- 7月：白砂公民館主事の田城さん、柿農家の平木さんを招いて、ビデオを見ながら西条柿作りについて詳しく話を聞く
- 10月：西条柿の収穫体験とJA美川選果場の見学
- 11月：合わせ柿の試食と学習のまとめ

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・少人数グループを編制することで、1・2学期を通して主体的に活動に取り組もうとする児童の姿を引き出す。
- ・白砂公民館との連携を密にし、西条柿の栽培農家やJAIいわみ中央にも協力してもらい、体験的な学習活動を行う。



- ・体験活動を多く取り入れ、実際に苦労や美味しさを感じ取らせる。
今年度はコロナ感染症対策で、摘果作業や浜田商業高校との柿クッキングはできなかったが、白砂公民館作製の「西城柿ビデオ」を教材にして出前授業を行うことができた。



③ 児童・生徒に見られた変容

- ・西条柿という三隅の特産品を知り、地域への愛着を感じ、誇りをもつことができた。
- ・地域の方とのかかわりが深まった。
- ・地域の行事に興味をもつようになった。
(今年度は柿祭りが中止となった)



特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立美川小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	ふるさと美川を守るために	周布川と自分達の暮らしとの関わりについて調べることを通して、ふるさとへの愛着や誇りをもてるようにする。

①取組の概要

- ・周布川について資料や聞き取りを通して調べる。（川の特徴、水質、植生、暮らしとの関わり）
- ・周布川の生き物調べ（水生生物）を行う。
- ・川の環境を守るための地域の取り組みを、聞き取りを通して調べる。
- ・川の環境保全のために自分達にできることを考え、実践する。（ポスター作り）
- ・学習して分かったことや感じたことをまとめ、学習発表会で家族や地域の人に知らせる。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

コロナ禍で活動内容や範囲に制限が加わり、当初構想として考えていた活動ができないことも多かったが、可能な範囲で周布川に直接ふれたり、川に携わっている人とふれ合ったりしながら活動を進めたいと考えた。アクアス職員の山口さんが出前授業を受けてくださったり、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんの案内で野鳥観察をさせてもらったりしたことで、児童は高い意欲をもって調べ学習を進め、学習発表会で自信をもって発表することができた。

③児童・生徒に見られた変容

- ・本や辞典、資料で調べることに抵抗感のある児童が多かったが、この学習をきっかけに、自分で調べて分かったり課題解決したりする体験が増え、調べようとする意欲が高まった。毎日見ているのにあまり気にも留めていなかった周布川について、学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。水鳥公園は事後に自発的に観察に行く児童も出てきた。
- ・水生生物の調査（支流の内田川で実施）、社会科の美川浄水場見学等によって、ふるさとの川の水質が誇れるものであることが分かり、その川の環境をずっと大切にしていこうとする思いが高まった。ポスターにもその思いが強く表現されていた。



【支流内田川での水生生物調査】



【周布川土手での野鳥観察】

特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1年	総合的な学習の時間	弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を通して、故郷に愛着をもち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えを持ち発信する力を育てる。

① 取組の概要

- ・「持続可能なまちづくりにむけてできること」「情報発信」というゴールをめざして、多様な「課題設定」に取り組めるように3つのテーマに関する学習に取り組んだ。
- ・公民館の幅広いネットワークを活用し、多くの人・もの・ことと出会い、個別の興味関心に応じた探求活動を行うことができた。そのおかげで、課題のゴールに向けて、具体的に自分の意見を持ち、まとめを成果として発表することができた。
- ・ICT活用教育を見通して、地元企業の方とリモート会議を体験することができた。

② ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

例年取り組んでいる「弥栄の未来を考える」学習に、SDGsゴール11を意識した「持続可能なまちづくり」という視点を持たせ、「社会に開かれた教育課程」を意識した実践を最終課題とした。

【共通課題】 講話・体験等から、自分の探求的な課題を決定する。

- ・まちづくり・創業：IT技術でできること・地元資源を活かした働き方・生き方(講話・体験)
- ・環境・産業：循環型林業の価値・地元で活躍する20代の方の思い(講話・体験・実験)
- ・防災・福祉：58水害と29水害における被害と避難状況・炊き出し訓練・疑似避難体験(防災教室 体験・講話)

【個別の探求的な課題と成果】

- ・「弥栄の人と自然の魅力」プレゼン発表・PV制作
- ・「弥栄の森を守るためにできること」プレゼン発表、「弥栄産木材を使用したベンチとごみ箱」の制作
- ・「命を守る防災」「知ることで守れる命」提案を含むプレゼン発表

③ 児童・生徒に見られた変容

- ・地域の自然と人の魅力を再発見するとともに、人々とのつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。
- ・校内行事で、地域に向けてできることを具体的に考え、提案を含む情報を発信することができた。学習の成果の一端を地域の行事で発表することができた。
- ・年末のおせち配色ボランティアに参加する生徒が増加した。



「リモート会議体験」



「防災教室 担架づくり」



「弥栄産木材でベンチづくり」「『や市』での取材」



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立川合小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	通いの場へいこう	学習の中でふるさとの自然や人とのふれあいを通して、ふるさとを愛し、ふるさとを語る子供を育てる

1 特色ある取組の概要

3年生『通いの場へいこう』の活動では、年間を通して、町づくりセンターで行われる通いの場に参加し、交流を行った。通いの場とは、地域の高齢者が集まって、体操をしたり、交流をしたりする場である。

今年度は新型コロナ感染予防のため、1学期は交流を行うことができず、2学期より始動した。1回目は一緒に健康体操をしたり、会話を楽しんだりした。そして2回目の交流では、自分たちが中心となって交流の内容を考え、紙芝居などの交流を行った。3回目の交流では親しくなった高齢者と年賀状のやりとりを行った。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

ふるさと教育の視点である「ふるさとの自然や人とのふれあいを通して、ふるさとを愛し、ふるさとを語る」ためには、地域の人とのふれあいを重視することが必要だと感じた。活動の時間はできるだけふれあい、会話をすることを重視した。また継続して同じメンバーとふれあうことで、愛着を深め、ふるさとの人を愛する気持ちを高めたいと考えた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

交流を重ねるうちに、次第に仲良くなり、高齢者が喜んでくれるにはどうしたらよいかを考え、交流できるようになった。相手の立場に立って物事を考えられるようになり始めている。また地域の高齢者と顔なじみとなり、積極的に話しかけたり、高齢者をいたわったりする姿が見られるようになった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立大森小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3～6	総合的な学習の時間	石見銀山子どもガイド学習	大森町の町並みや石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育むことができる。

1 特色ある取組の概要

- ・大森町の町並みを歩き、銀山カルタに載っている場所や観光客に紹介したいお気に入りポイントを探したり確認をしたりする。
- ・観光客に見てもらおうと壁新聞作りをしたり、町並みの散策の時に使ってもらおうとリーフレット作りをしたりした。
- ・「大森っ子発表会」で、「カルタで巡るGINの道」と題して学んだ内容を披露したり、壁新聞やリーフレット作りの様子、大森の町並み保存などについても発表したりした。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- ・学校行事「遠足」との連携・体験活動の重視
 遠足の実施目的の一つに「石見銀山学習」を位置づけ、実施場所を「西田～沖泊」（銀の道）とした。石見銀山ガイドの会の方から様々な史跡を実際に見ながら、石見銀山の歴史や伝承などを分かりやすく教えていただいた。「ふるさと大森 石見銀山」への興味や関心が増した時間となった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・自分たちの目で確かめ、感じながら調べていく学習を通して、大森の良さを再発見した。また専門の方に聞いたり調べたりする学習を通して、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てることができた。
- ・石見銀山学習で学んだことを学習発表会（大森っ子発表会）などの場で発信する過程を通して、より地域への理解を深めることができた。そして、それらの活動を多くの方々から認められ賞賛されることで、大森町への誇りと愛着がさらに深まったり、児童一人ひとりの自己肯定感が高まったりした。



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立第二中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	石見銀山学習	石見銀山の歴史や価値などについて、理解を深め、ふるさとを大切にすることを育てる。

1 特色ある取組の概要

- ・大田市にある世界遺産、石見銀山について、学校での調べ学習のあと、現地での体験学習を行った。
- ・体験学習したことをもとに、各グループのテーマに沿ったガイドブックを作成した。
- ・作成したガイドブックは各学級で発表会を行い、学校ホームページに掲載した。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- ・班ごとにガイドブックの対象をテーマとして決めてから活動を始めた（例えば家族向け、若者向け、グルメの方向けなど）。
- ・石見銀山について、小学校で学習したことなどを確認したうえで、書籍や実際に使われているガイドブック、インターネットを使って調べ学習を行った。
- ・現地学習の前に石見銀山ガイドの会の方を招き、現地学習のスケジュールや現地で説明を聞くスポットを決めた。
- ・学習したことをガイドブックとしてまとめ、学校ホームページに掲載した。






3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・世界遺産、石見銀山の歴史や特色について理解を深めることができた。
- ・ガイドブックの作成を通して、大森地区の特色や歴史を伝えるための工夫を考え、発信することができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	江津市立郷田小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	江津市のよいところを紹介しよう	地域の特産品に注目させることを通して、地域の特徴や地域活性化のための工夫・努力についての調べ学習を行い、地域活性化の一翼を担う活動を主体的に行わせる。
<p>1 特色ある取組の概要</p> <p>地域の特産品に目を向けさせ、単元のゴールを「江津市の良いところのPRソングをつくろう」に設定する。地域の特産品について調べ、それをもとにPRソングを作成。地域のお店でPRソングを流してもらい、より多くの人に江津市の良さを知ってもらおう。</p> <p>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを「PRソングをつくろう」に設定し、児童の学習意欲が継続できるようにした ・地域資料を収集し、江津市の良さに対する具体イメージを児童が持てるようにした。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江津市の良さ、特産物の素晴らしさなどについて、児童が具体的に理解できた。 ・特産品について意欲的に調べ、まとめる活動を通して、調べ学習の学習サイクルについて体験的に理解することができた。 ・自分たちがふるさと江津市の良さをPRするのだという意欲や、ふるさと江津市への愛着を高めることができた。 			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>			

特色あるふるさと教育事例

学校名	江津市立桜江中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習	桜江町の川の歴史を知ろう ～桜江町は川とともに～	ふるさとの良さに気づき、ふるさとを大切にすることを育てる。

1 特色ある取組の概要

・安全に安心して暮らしていけるふるさとについて考えることができる生徒を育てることを目的に外部講師（島根県浜田県土整備事務所や江津市役所桜江支所）を招き、桜江町の水害の歴史や治水事業を通して学んだ

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

○川の仕組みや役割について知り、身近な河川の流域マップを作る

・自分の生活する地区の河川について考えることができる。

○水害になった時の避難ルートを考える。

・自分の生活する地区を水害の視点から見直し、実際の避難について考えることができる。

○4つのテーマについて班ごとに調べ、掲示板にまとめる。

・「川の氾濫」「過去の大水害の状況について」「桜江町の生活の移り変わり」「川の恵みから生まれる文化」についてそれぞれの班で調べた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

・ここ近年になってしばしば起こるようになった「水害」について、過去の大災害を知るなどにより防災意識が高まり、安全に生活できるふるさとにしたいとの思いが高まった。

《1年 治水授業》県浜田県土整備事務所とコラボ授業



《1年 江津市総務課 ハザードマップ授業》



《1年 小田堤防見学》



特色あるふるさと教育事例

学校名	川本町立川本小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
4～6年	クラブ活動	江川太鼓に親しもう	・地域の伝統芸能を体験することにより、その良さに気づく。
<p>1 特色ある取組の概要</p> <p>昭和47年に発生した集中豪雨により江の川は大洪水となり、川本町は再起不能と言われる程の水害を受けた。川本町全体が洪水により暗く沈んでいる中、町の若者が町民の元気を取り戻そうと話し合いをし、太鼓の勇敢な響きに川本町の復興を託して結成されたのが「江川太鼓」であり、川本町を代表する伝統芸能である。</p> <p>そして、川本小学校では、クラブ活動の一環として江川太鼓に取り組んでいる。</p> <p>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</p> <p>クラブ活動は、年間で8回（10単位時間）実施している。活動時には、毎回「江川太鼓同好会」の方が来てくださり、子どもたちの指導をいただいている。</p> <p>1回目の授業では、江川太鼓ができたいきさつについて、資料（中学校の道徳の副読本に取り上げられた江川太鼓についての内容）をもとに話をしていた。</p> <p>2回目～8回目は、実際に太鼓をたたき練習をし、クラブ発表会に向けて曲（わち太鼓）を完成させていった。</p> <p>そして、昼休みに全校児童の前で発表をした。その際に、「江川太鼓同好会」の方が2名いっしょに太鼓をたたいてくださり、他のメンバーの方も応援に駆けつけてくださった。</p>  <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</p> <p>【児童のお礼の手紙より】（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、始めたころは、リズムやたたきタイミングなどで頭がいっぱいでした。でも、回数を重ねるごとに少しずつではあるけど、だんだん覚えてきたし、楽しくなりました。だんだん太鼓をたたくのになれてきたら、二人でたたいたりしてどんどんむずかしくなっていたので、おもしろかったです。ぼくは、3年間太鼓をして太鼓の楽しさや伝統の大切さなどが分かったのでよかったです。 ・最初に江川太鼓のこと、次に太鼓のたたき方のこと、その次にたたきリズムのこと、最後にかっこよくするところなどを教えてもらいました。たたきのはつかれるけど楽しかったです。クラブ発表会では、ぼくの全力の力で、みんなと協力して太鼓をたたきたいです。 ・私は、伝統芸能クラブで太鼓をやって、太鼓の楽しさやおもしろさが分かりました。 <p>このような手紙の内容から、子どもたちは、体験を通して太鼓の楽しさを知り、伝統の大切さにも気づいていった。学校のクラブだけでなく、地域で太鼓同好会の方といっしょに活動している児童もおり、川本町の伝統芸能を愛好する姿も見られる。</p>			

特色あるふるさと教育事例

学校名	川本町立川本中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
2	総合的な学習の時間	自分とふるさとを見つめ直そう	ふるさとの人々の思いを知り、課題を解決していこうとする。
<p>1 特色ある取組の概要</p> <p>昨年度行ったふるさと学習をもとに、個人テーマを決め、課題を追究し、発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際に現地に出向き、サポートしていただく方に支援をいただきながら調査を行う。 2. 自分やチームで調べたことをまとめ、個人新聞を製作する。 3. 自分やチームでまとめたことを保護者向けの発表資料を製作する。 <p>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</p> <p>地域連携コーディネーターと連携・協働しながら、地域の方に授業の目的や狙いなどを理解してもらうこと。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導してくださる地元の方の熱い思いや温かさに触れることにより、地元川本への貢献活動を積極的に行おうとする生徒が増えた。 ・この授業を通して知り合った方と、異なった地域貢献活動でも活動を共にして親交を深めることができた。 			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

特色あるふるさと教育事例

学校名	美郷町立邑智小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	山くじら学習	<ul style="list-style-type: none"> ・美郷町の特徴や産業に触れる体験的な学習を行う。 ・「ひと・もの・こと」のかかわりを知り、自分の生き方について考える
<p>1 特色ある取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○獣害対策の意義と方法，獣の生態について ○イノシシの活用と動物の命について ○サツマイモ，大豆の苗植え・収穫 <p>2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動に携わっておられる方の想いを直接聞く（実感を伴う交流を大切に） ○他の教科とのつながりを意識して活動に取り組む（教科横断的にし、多角的な視点を持つ） <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○畑を荒らす獣は悪くないという見方をもつようになった。 <ul style="list-style-type: none"> ・野生にある草や果実より人間が作った野菜や果物の方がおいしいから，獣がそれを食べて味を覚えると，人間の作った作物を求めて里に下りてくるが多くなる。 ・人間が正しい作物の管理や獣害対策をしないから獣が現れ，その結果，獣は畑を荒らす悪者として扱われるようになる。このことは人間の身勝手によるものだという見方もできる。 ・野生に帰らなさいという思いを込めて，ロケット花火や電気柵などを使って獣を追い払う。 ○「人以外の動物」，「植物」，「人」の共通点やつながりについての理解が深まった。 <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシはきれい好き。川でよく体を洗っている。 ・イノシシのお母さんも子宮で子どもを育てる。へその緒，羊水，胎盤もある。 ・大豆の葉を食べる芋虫を，スズメバチが食べて駆除してくれる。 ・サツマイモは虫に実をかじられると，食べられないように酸味や苦味を感じる成分を出す。 ○地球にはいろんな命が生きている。その命は互いに関わりあっており，地球は人間だけのものではないという感覚を醸成することができた。 			
			

特色あるふるさと教育事例

学校名	美郷町立大和中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
全学年	総合的な学習の時間	荷越瀬プロジェクト	地域資源を活用した探究的な学習を通して、ふるさとについて学び、地域資源の維持や発展について考える。

1 特色ある取組の概要

全30時間で設定。生徒は希望により「ふるさとコース」「神楽コース」に分かれ、体験を重視した活動の時間と探究的な学習を行う時間を組み合わせて、ふるさとについて学び考える時間をもつ。その際は地域資源を活用して、地域と直接かかわることを重視する。学習の成果は12月に発表会を実施し、生徒相互・保護者・地域に向けて発信した。

<主な活動>

- ①ふるさと体験 ふるさとコース…講話／話し合い活動／地域見学／調理活動
神楽コース …神楽練習
- ②探究的な学習 全校テーマ→各学年テーマ→個人テーマ（個人タイトル）と設定し、生徒は個人テーマについて追究した。
- ③発表会
- ④その他 ガイダンス、テーマ設定ワークショップ、振り返り、スキル学習など

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

美郷町地域学校支援コーディネーターとの連携により、地域資源の掘り起こしと情報提供、地域に出かけて学習をする際の打ち合わせ、生徒の活動への支援などの十分な支援体制を整えた。そのため、生徒が実際に地域に出かけて見学したり地域の方にインタビューしたりするなどの機会が多数実現できている。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

普段の言動から、生徒はこの学習を通して地域への感謝の思いを深めるとともに地域の新しい魅力を知り、地域の変化に多少の期待感をもっている様子が伝わってくる。また、下に示した振り返りの結果から、地域の一員として自分にできることを考え、実践しようとする意欲を高めていることが分かる。



<振り返りアンケート（2020.12月実施）より> *生徒が各項目5点満点で評価した平均値

- Q：自分自身がふるさとのファンになったか **4.50**
- Q：もっと地域のことを知りたいか **4.60**
- Q：地域の方ともっと話や一緒に活動したいか **4.57**
- Q：今後も、地域のためにできそうなことを調べたり考えたりしたいか **4.40**
- Q：中学生でも地域のためにできることがあると思うか **4.74**

特色あるふるさと教育事例

学校名	邑南町立阿須那小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3・4年	総合的な学習の時間	大豆プロジェクト	地域の方と直接かかわる楽しさを感じながら、ふるさとの生活は環境と結び付けて営まれていること、人々の工夫や努力により守られながら変化していることを知る。
1 特色ある取組の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の畑で野菜を育てる計画を立て、大豆を育て、観察する。 ・大豆について調べ、様々な利用方法があることを知る。 ・地域に豆腐を作っておられる方がいることから豆腐作りに挑戦する。 ・豆腐を作っておられる方の思いや工夫について話を聞く。 			
2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とかかわる活動を大切にするため、指導者も一緒に学ぶ姿勢でわからないことは自分たちで調べたり、地域の方に聞いたりする。 ・理科の学習と関連付け、自然環境や育てる工夫について調べる。 ・観察記録をとり、疑問を解決しようとする意欲を高める声掛けをする。 ・JAの方や豆腐作りをしておられる方に聞く活動ができるようにする。 ・大豆の食べ方に関心を持つことで、学習意欲の継続と学習の広がりを作る。 			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・食べるために植物を育てることを通して、大切に育てる意識が高まるとともに、より多くの収穫をするための工夫や努力について考えることができた。（ワークシート） ・大豆畑がサルの被害にあった時、どうすれば獣害から守れるかを身近な人に聞いたり、調べたりすることができ、課題を自分たちで解決しようとする力が身についた。（行動観察） ・食べ方を図書館で調べる活動を通して、様々な工夫によっていろいろな食べ方があることに気づいた。（ワークシート） ・実際に豆腐を作る活動を体験し、豆腐が出来上がるまでに時間がかかることや様々な工夫があることを知り、食べ物大切さについて感じる事ができた。（お礼の手紙） ・お礼の手紙を書いたり、学習のまとめをする活動を通して、地域の人とかかわる楽しさや専門家に聞くという調べ方のよさを感じる事ができた。（まとめの感想） 			



特色あるふるさと教育事例

学校名	邑南町立瑞穂中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	働くことについて考える3日間	地域の教育資源を効果的に活用した活動

1 特色ある取組の概要

これまでの職場体験学習が実施できなかったため、邑南町商工会青年部の方や地域の方にご協力をいただき多くの職種の方から講話をしていただいた。また、農業体験では、地域在住の戸津川さん夫妻に来ていただき、職業・農業に対する思いを聞いたり、にんにくを植える前の準備作業や、トマト栽培終了後の整地作業の手伝いをした。3日間の活動を通して、働くことの意義についてしっかり考えることができた。



2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業(活動)のポイント(工夫)



3日間の活動を通して、働くということに対する興味・関心を高め、働くことの楽しさと厳しさを学ぶとともに、働くことの意義を考えるため、邑南町商工会青年部の協力をいただき職業講話として10名の方からそれぞれ邑南町で働くことについて講話をしていただいた。また、農業体験や、地域清掃活動を通してこれまで育ってきたふるさと瑞穂、邑南町のよさを再確認したり、地域への感謝の気持ちを持つたりする機会と位置付けて活動を行った。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)

- ・ 講師の方からは、邑南町(故郷)への思いなどをそれぞれの言葉で話していただき、生徒は地元でも様々な職業があることを実感できた。
- ・ 将来的に邑南町で働くことを考える生徒がみられた。
- ・ 高校受験等の進路選択に向けて、生徒一人ひとりの意識がより強くなった。
- ・ 講話に合わせて、各自が他者に感想や自分の考えを伝える活動を通して、自分の思いを伝える力や、コミュニケーションスキルの向上につながった。

